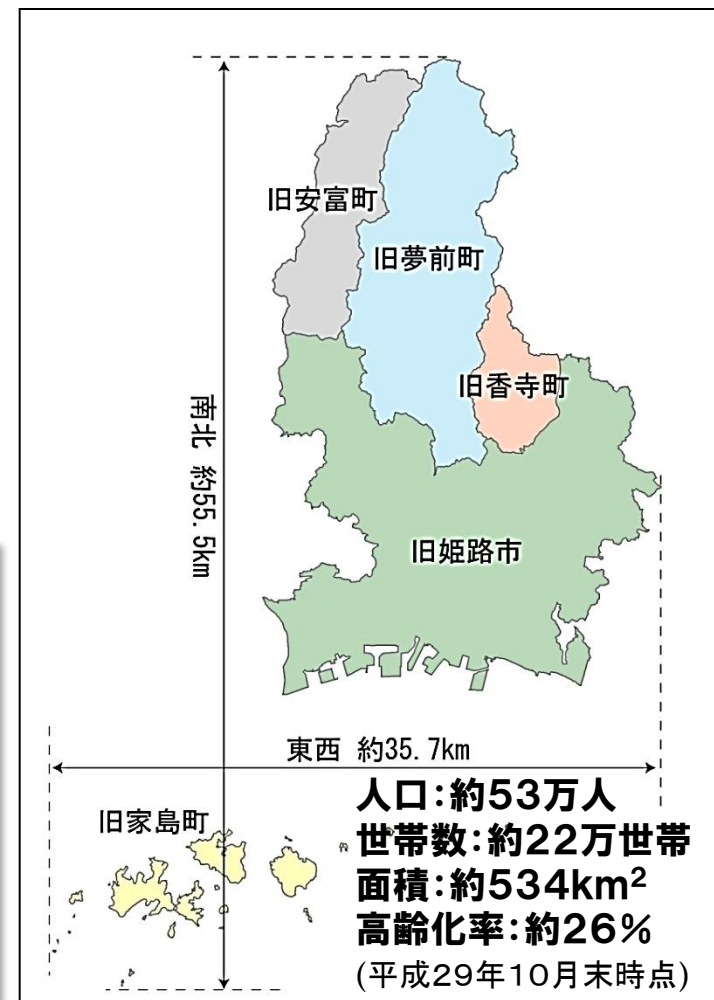




公共交通を中心とした 姫路市総合交通計画の取り組み

2018年2月
姫路市

姫路市の概要

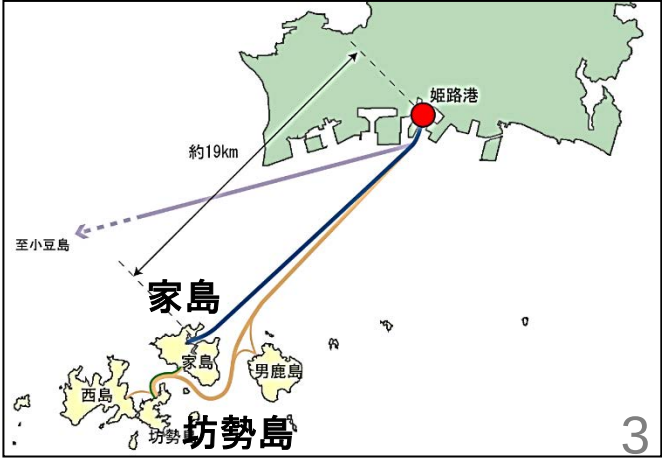


姫路市内における公共交通の現状

交通事業者	駅・停留所数	路線・系統	備考
JR	16	新幹線、山陽本線、播但線、姫新線	2005年3月ひめじ別所駅開業 2008年3月はりま勝原駅開業 2016年3月東姫路駅開業
山陽電車	15	本線、網干線	
神姫バス	約700	約112系統	2010年3月市営バス事業を移譲
離島航路	5航路	姫路一家島2航路、姫路一坊勢島2航路、家島一坊勢島 1航路	



左図：姫路市鉄道網
下図：離島航路



公共交通を中心とした姫路市総合交通計画の策定

公共交通利用者数の減少と
事業採算性の低下

中心市街地に流入する
大量の自動車交通

バリアフリー化や乗り継ぎ改善
が必要な交通結節点

等々

課題解決へ一体的・
継続的な取り組みが必要

都市・地域総合交通戦略
地域公共交通網形成計画



展開すべき主要な施策 3つの柱

公共交通の利便性向上

姫路駅の交通結節機能の向上と都心の回遊性の向上とともに、鉄道と他手段の連携機能強化や鉄道、バスの機能強化によって、公共交通の利便性向上をめざす

公共交通の利用環境改善

乗り継ぎ抵抗の軽減や情報案内の充実によって、利用しやすい公共交通利用環境をめざす

参画と協働の推進

公共交通の利用促進活動の充実、公共交通利用促進組織の支援によって、市民と交通事業者・行政が協力し、公共交通の活性化をめざす

計画の目標

具体的な数値目標

一人当たりの年間平均公共交通利用回数

100回（2007年度現在）⇒ **120回**（2020年度目標）

長期的な人口減少社会においても市民一人当たりの公共交通利用回数を増やすことで利用者数を増加させるとともに、市民一人ひとりが具体的な目標を共有することにより、日常の交通行動を見直すきっかけとなるよう、数値目標を「2007年度の一人当たり年間平均公共交通利用回数“約100回”を、2020年度には“120回”に増加させること」と定める

自動車から公共交通への利用転換による二酸化炭素排出削減量

1万トン／年（2020年度目標、2007年度比）

姫路市総合計画に掲げる都市づくりの基本理念の一つである“自然との共生”を実現するためにも、「自動車から公共交通への利用転換により、2020年度には2007年度に比べ二酸化炭素排出量を1万トン削減すること」をもう一つの数値目標に定める

姫路ターミナルスクエア
2015年3月27日オープン



JR姫路駅北駅前広場

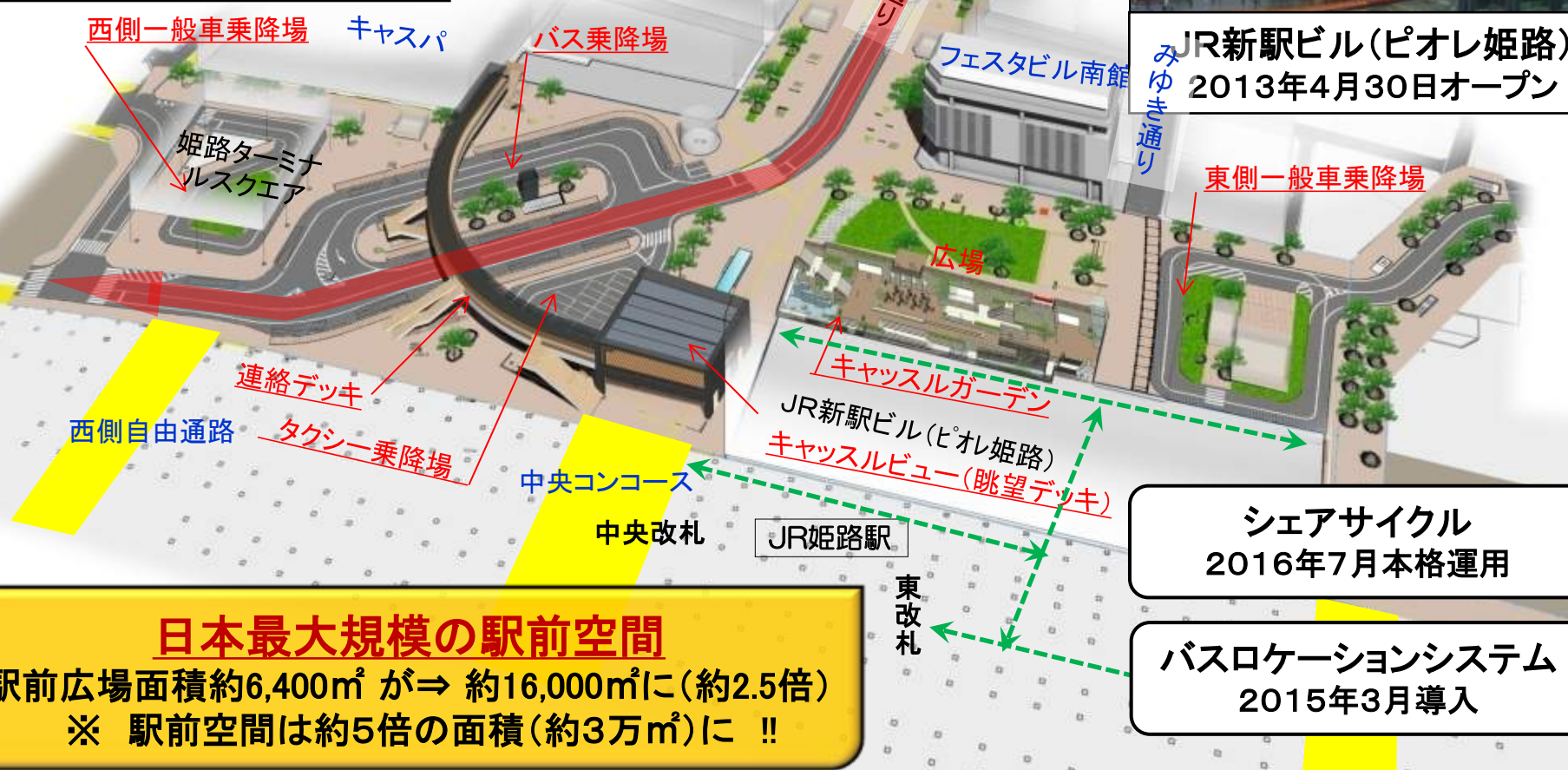
「播磨の中核都市にふさわしい都市の顔」

基本コンセプト:「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」

大手前通り
トランジットモール導入
2015年4月規制開始



JR新駅ビル(ピオレ姫路)
2013年4月30日オープン



日本最大規模の駅前空間
駅前広場面積約6,400㎡ が⇒ 約16,000㎡に(約2.5倍)
※ 駅前空間は約5倍の面積(約3万㎡)に !!

シェアサイクル
2016年7月本格運用

バスロケーションシステム
2015年3月導入

整備前



JR姫路駅北駅前広場及び トランジットモール整備前後

正面に世界文化遺産・国宝姫路城を臨む大手前通り

整備後



トランジットモール導入

2012年6月～

道路法による通行制限を実施

2015年4月～

道路交通法による通行規制



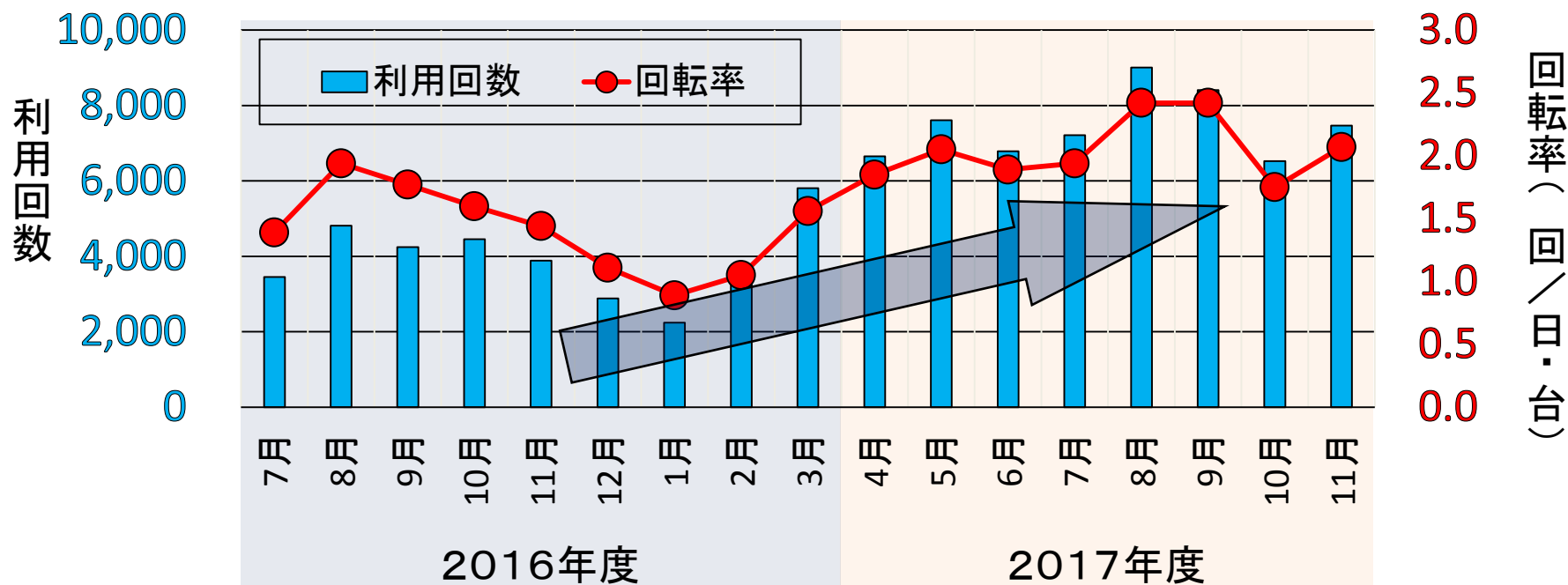
車両通行禁止
(路線バス・
タクシーを除く)

シェアサイクル「ミミちゃん号西松屋チェーン姫ちやり」



- 高次都市機能が集積するJR姫路駅周辺における公共交通の2次交通として導入
- 現在、サイクルステーション20か所、自転車180台で運用中
- 中心市街地における通勤や観光での利用が定着しつつあり、回遊性の向上や都市の魅力向上に貢献
- ネーミングライツスポンサーとして地元企業も協力

【利用実績】(2016年7月本格運行～2017年11月まで)



JR姫新線における取り組み

2010～2011年度 JR姫新線増便社会実験

増便数: 区間により2～16本(図参照)

2006～2009年度 JR姫新線輸送改善事業

対象区間: 姫路～上月駅間(L=50.9km)

事業主体: 兵庫県、姫路市、たつの市、
佐用町、JR西日本

新型車両の導入: 高速気動車19両の導入

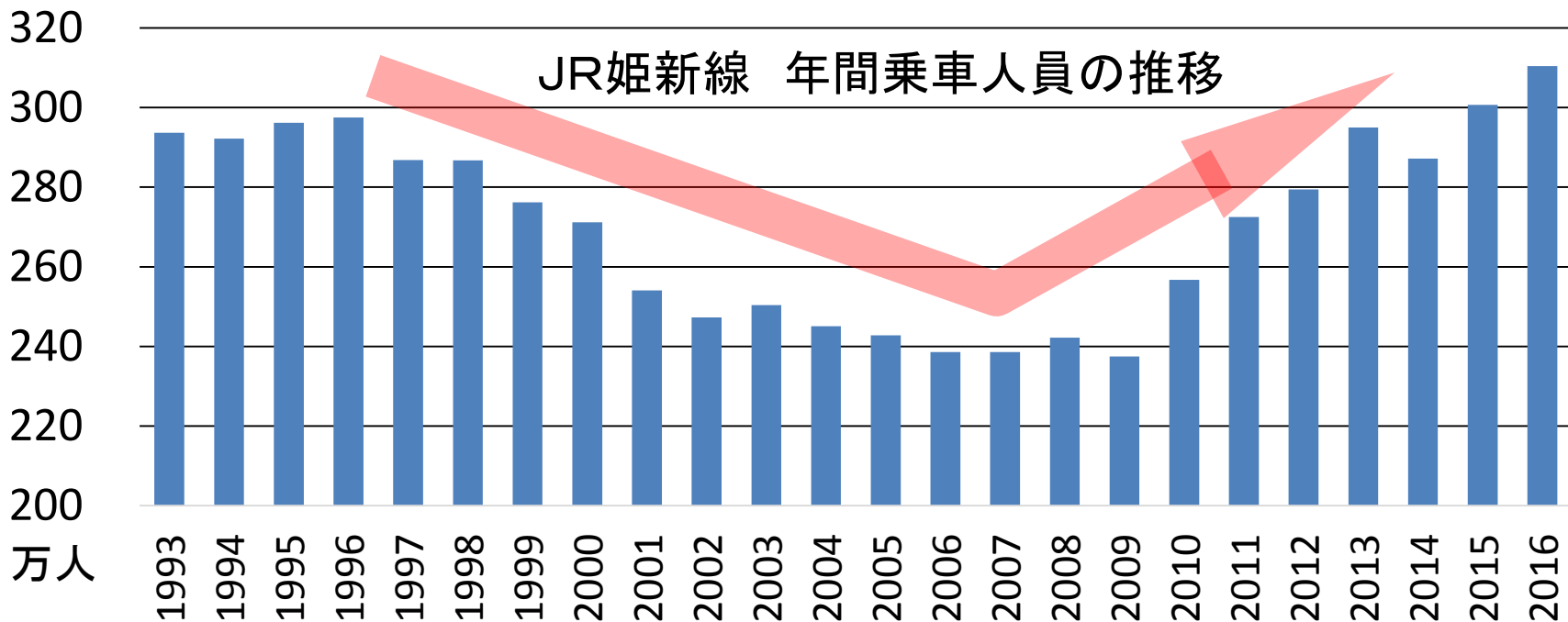
地上設備改良: 軌道強化、曲線改良、安全
側線新設、CTC、ホーム嵩上げ、等

事業効果: 姫路～上月駅で平均約9分の短縮



JR姫新線における取り組み

JR西日本と沿線自治体、兵庫県により「**チャレンジ300万人乗車作戦**」を展開
車両基地見学会やMM、企画列車などの利用促進策の取り組みを推進



公共交通空白地における取組

家島、坊勢コミュニティバスの事業スキーム

姫路市

- 事業主体として「市町村運営有償運送(空白地輸送)」の許可を取得
- 運行管理者

→
＜運行事務を委託＞

地元自治会

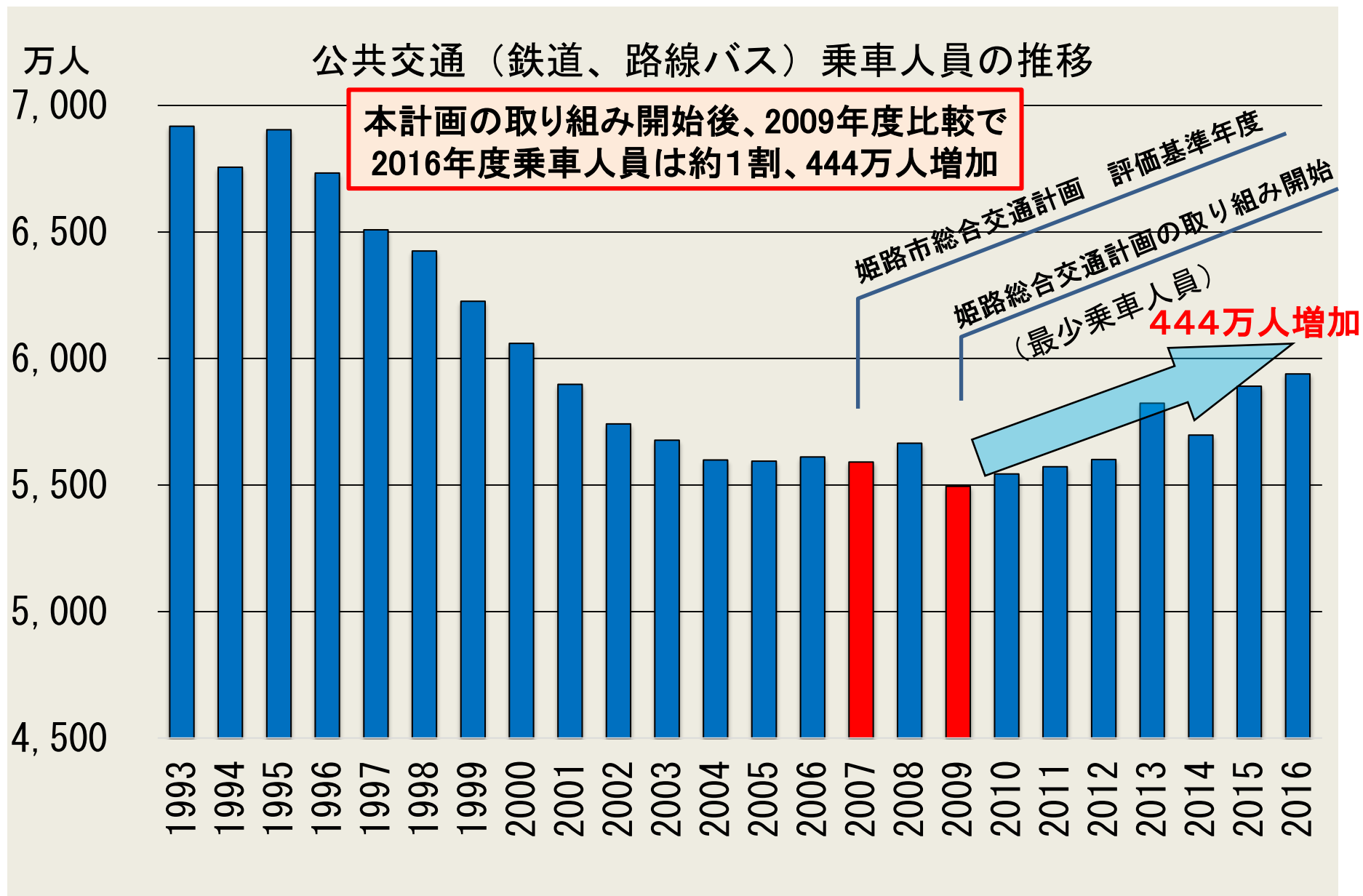
- 運行日誌の作成、報告
- 車両の点検、管理
- 運転手のシフト作成
- 車両の運転(一人あたり2回／週程度、1回あたり半日の運行)



お客さんから「コミバスが無くなったら困る」「続けて欲しいから、できるだけ乗るようにしてます」といった意見をよく聞きます。

運転は気を遣いますが、「ありがとう」の声が元気の源になっています。

公共交通利用者の推移(1993～2016年度)



環境改善量の推計(鉄道・路線バス)

計画基準年である2007年度と比較して、2016年度は、
CO₂ 約6,000t 削減(推計)

(内訳: 鉄道 約8,100t 削減、路線バス 約1,900t増加)

環境改善量推計の考え方

- 公共交通利用者の増加人員が自動車から鉄道・路線バスに転換されたものと仮定
- 計画評価基準年を2007年度とし、各年度を比較評価
- 推計CO₂削減量＝公共交通日当たり乗車人員増分×自動車の平均トリップ長
×各モードの輸送量当たりのCO₂排出量の差分×365日

輸送量当たりのCO₂排出量(g-CO₂/人キロ)



国土交通省(2006年度実績)

姫路市発着トリップのトリップ距離とトリップ数

	鉄道	バス	自動車	二輪	徒歩	その他	合計
トリップ距離(Tkm/日)	4,588,166	280,988	7,723,764	779,776	348,313	94,267	13,815,274
トリップ(T/日)	134,330	36,036	754,370	259,655	231,762	3,180	1,419,333
平均トリップ長(km)	34.2	7.8	10.2	3.0	1.5	29.6	9.7

出典: 播磨都市圏パーソントリップ調査(H18)